



戦後80年のあゆみ

日本の終戦から80年が経過しました。戦時から現在までの間、私たちの暮らしに大きく影響を与えた出来事などを歴史資料などから振り返ります。

問合せ先 総務課市史資料室（北村支所内） ☎ 56-2001

最終回 掘り起こされた地域の歴史 戦後の歩みと地域史の再発見

大正15年、樺太師範学校を卒業した川野栄三郎は、樺太公立小学校に勤務し、在職中に学術研究員として研修を受け、考古学などの知識を習得しました。昭和20年9月から、ソ連占領下で日本人学校の校長として抑留生活を送る日本人子弟の教育に当たり、昭和24年に北海道へ引き揚げ、昭和27年から栗沢町立由良小学校の校長を務めました。

昭和22年の学校教育法制定に伴い誕生した中学校では、小学校の教室などを借りて授業を行いながら校舎の建設を急ぎました。昭和26年、旧ダルミ川沿いに新校舎を建設した豊中学校のグラウンドから発見された擦文時代（7～13世紀頃）の土器は、復元されて郷土室で公開されました。

栗沢町では、戦後開拓で開墾された土地から考古遺物が見つかり、川野は中学生から得た情報を基に加茂川で多くの土器や石器を発見し、昭和34年には北海道札幌西高等学校郷土研究部を迎えて由良で発掘を行いました。さらに昭和37年からは北海道学芸大学（現在の北海道教育大学）札幌分校による加茂川遺跡の発掘調査が行われ、地域の縄文文化の解明が進み、調査で出土した石器の一部は、昭和43年に岩見沢市指定文化財に指定されました。また、戦後の歴史観や暮らしの変化に伴い、地域の先史時代や開拓の歴史、災害や戦争の記憶を振り返り、郷土史として残す取り組みも盛んになりました。北村では、戦後いち早く「北村史」を発行し、アジア・太平洋戦争期でも続けられた石狩川治水事業の進展に触れながら、水害と戦ってきた村の歴史を振り返りました。岩見沢では開庁の節目に合わせて「岩見沢市史、や「岩見沢議会史、岩見沢教育史、が刊行され、いずれも川野が編集を担当しました。満州事変以降、15年間の戦争によって産業や暮らしは大きく変わりました。その中で生き抜き、今日の岩見沢を作り上げた先人の歩みは、郷土史などの形で記録、継承され、戦後80年を迎えた私たちに地域史を再発見する機会をもたらしてくれます。

加茂川遺跡の発掘調査（昭和38年）



広報クイズ

正解者の中から抽選で10人に図書カード500円分をプレゼント

問題

- 市は、北海道大学 COI-NEXT
 とカラダのライフデザイン共創拠点、に参画しています
 に当てはまる言葉をお答えください

応募方法

はがき、市ホームページのフォーム、ファックス（0126-23-9977）、Eメール（pr@city.iwamizawa.lg.jp）で、●クイズの答え●住所●氏名●年齢●電話番号●広報紙に関するご意見・ご要望を必ず記入し、総務部秘書課広報室へ。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。2月号の正解は144でした。



締め切り 3月23日(月) (必着)

人の動き

住民基本台帳（令和8年1月31日現在）

人	男	33,863人	（前月比 - 45）
	女	38,791人	（前月比 - 72）
	総数	72,654人	（前月比 - 117）
世帯数		40,006世帯	（前月比 - 53）

岩見沢市役所

☎ 068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号

☎ 0126-23-4111（代表）FAX 0126-23-9977

ホームページ <https://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp/>



ホームページ



X (旧 Twitter)



Facebook



Instagram



LINE

広告

広告募集中

広報いわみざわに広告を掲載しませんか

募集枠数 各号2枠（申込多数の場合は抽選）

掲載料 各号1枠22,000円

申込期限 掲載希望号の3カ月前の月末
（6月号に掲載希望の場合は3月31日(火)までに申し込み）

申込方法など、詳しくは市ホームページをご覧ください



ID: 14518



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

この広報紙は道産間伐材配合紙を使用しています。